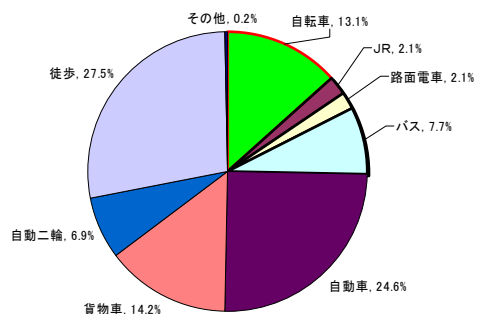


(7) 広島市中心部における自転車利用環境の改善延長

成果目標 ▶ 現況把握 ▶ 施策の選定 ▶ 平成16年度の取り組み

● アウトカム指標の位置づけ

広島市は、自転車が鉄道、バス、路面電車等の公共交通機関とほぼ同じ割合で利用されており、自転車歩行者道を自転車と歩行者に分離することで、互いの安全性・快適性の向上につながることから、広島市中心部における自転車利用環境の改善延長を指標として採用しました。



出典：S62年広島都市圏パーソントリップ調査

図7-1 広島都市圏内で発生する全交通量の代表手段分担

● 現況値と目標値

広島市中心部における自転車利用環境の改善延長



● 現況把握

広島市において、自転車と歩行者が物理的に分離された自転車道または視覚的に分離された自転車歩行者道は、国道54号などで整備されていますが、その延長は約5000mで、まだまだ十分とはいえません。



整備前



整備後



【国道54号の整備例】
 歩行者と自転車を区分することを目的に、視覚的分離による自転車通行帯を、現況幅員内で整備しました。当該地区の電線共同溝工事に合わせ、歩道的美装化を一体的に行いました。

出典：自転車施策先進都市の紹介、国土交通省

図7-2 自転車利用環境の改善道路の整備状況

(7) 広島市中心部における自転車利用環境の改善延長



● 施策の選定

現在の限られた道路空間の中では、新たに自転車専用の走行空間を創出することは厳しいことから、既存の広幅員の自転車歩行者道(自歩道)を対象に自転車利用環境の改善を進めていきます。具体的には、国道2号、国道54号などにおいて、電線共同溝の整備時期などに併せて、歩行者と自転車の視覚的分離を促進します。

● 平成16年度の取り組み

平成16年度は、国道2号観音本町地区640m、駅前観音線700m(カラー舗装による視覚分離)の歩道整備を行います。

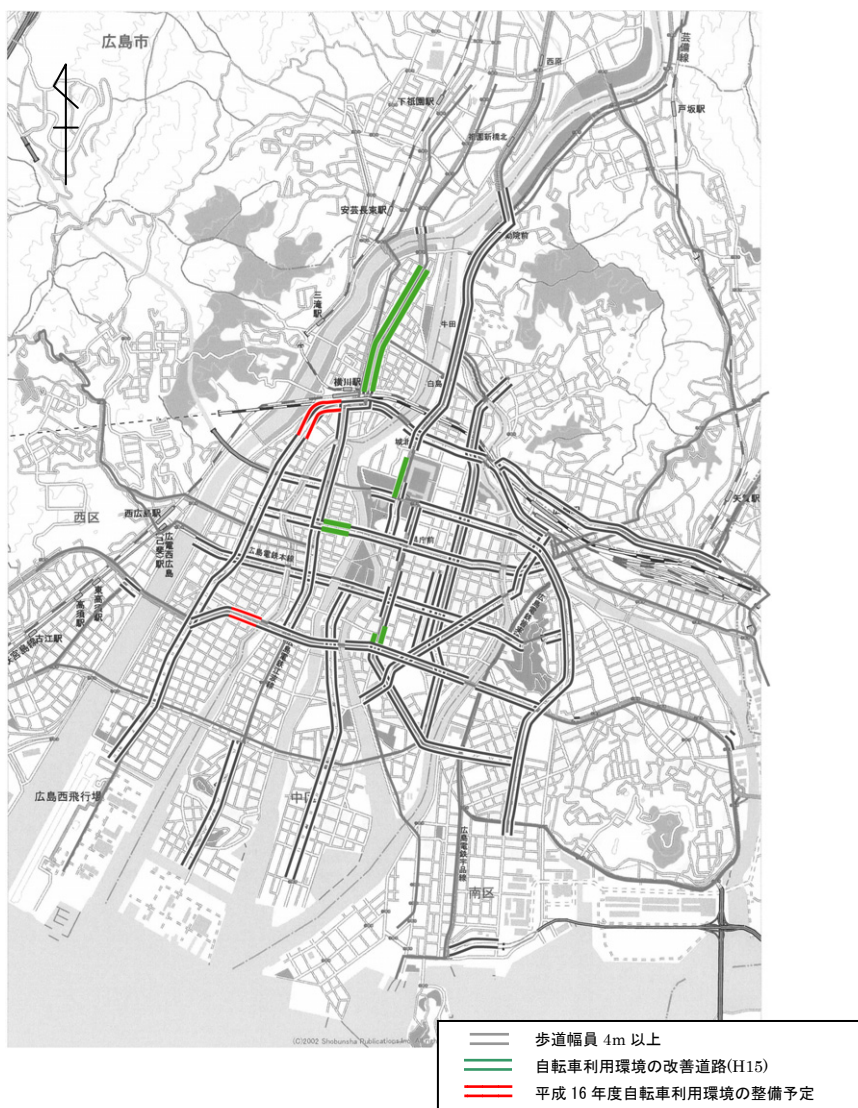


図7-3 自転車利用環境の改善道路の整備予定